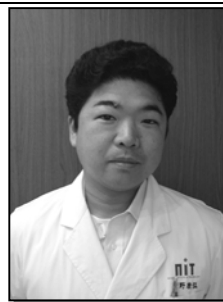


次世代の健全なる技術者養成中

所属：新潟工科専門学校バイオテクノロジー科

氏名：岡野 康弘

部門：生物工学



北陸支部

略歴

1968年生れ

東京都出身

趣味：ワイン収集

抱負：技術と経営の

融合がライフワーク

です。

【これまで】

私が技術士登録をしてから、6年が経ちます。その間、現在の工業系専門学校のバイオテクノロジー科で、微生物学や遺伝子工学、醸造学等の実習を教えてきました。この6年間という期間に限っても、新しい技術が次から次へと生まれ、加速度的に進歩する科学技術の発展に驚きます。

そしてこの間、バイオテクノロジー科を卒業していった学生たちは、現在実に様々な分野で活躍しています。国際イネゲノム配列解読コンソーシアムでの解析プロジェクトに携わった者、ワクチン製造の技術者となった者。また、本校が新潟という地にあることから、醤油・味噌醸造、酒造といった業界で活躍している者、地ビールの醸造師として世界ビアカップで金賞を受賞した者もいます。

私が彼らに教えることができるのは本当に僅かなもので、実務についてから彼らが現場で学ぶことの方がはるかに多いことと思います。その教えることのできる僅かな中でも、特に技術者倫理に関しては重要性が高まりつつあるのかも知れません。法整備はもとより、倫理も先行する技術の後追いになりがちなのは懸念されるところです。

そして、技術の急速な発展に伴いその倫理も単純明快、一刀両断に答えの出せる場合ばかりではなくなってきました。また、昨今の食品偽装、個人情報漏洩など、その被害が甚大で取り返しのつかない結果となる場合も多くなりつつあるようです。

科学技術の急速な進歩は生活、強いては文化や考え方で変えてきました。日進月歩で進化するバイオテクノロジーに関しても例外ではなく、その影響は大きいでしょう。将来の技術者を育てるには、テクニックだけを教える時代ではなくなりました。

しかしながら、新たな技術が次から次へと現れるこの現代の中で、技術者倫理を教えるのはなかなか難しいと感じるのも事実であります。

【これから】

技術の世紀に入った現代では、両刃の剣はますます鋭利になりつつあります。この「技術」という利器を適切に使いこなして、社会に利便と共に安全と安心をもたらす将来の技術者養成のために、自らの新しい技術と知識の習得と技術者倫理にも注力していきたいと思えます。

今ひとつの目標は、今通っているビジネススクールで習得したスキルを生かして、技術を経営に活用した経営管理をライフワークにしていきたいと考えています。

20世紀に多くの方が想像した通り、21世紀が科学の時代となり、その恩恵を人類が安心して享受できる時代になればと切望します。